天孫降臨と猿田彦大神

昭和村ボランティアガイドの会
事務局長　島田　民夫

天孫降臨とは、高天原におわす神々が、葦原の中つ国(今の日本国)を治めるべく実行された神々の降臨である。当初アマテラスは、アメノオシホミミを降臨させる予定であったが、オシホミミにヒコホノニニギという子が生まれたため、このニニギを降臨させることとなった。

ところがいざ出発という時、行く手に天地を照らしながら、恐ろしい形相をした男神が立ちはだかった。そこでまずアメノウズメがその正体を確かめるために遣わされた。

男神の名はサルタビコ、道筋を治め境界を護る道祖神の性質を持つこの神は、天孫降臨の際の道案内を申し出たのだった。

ニニギの同行者は中臣氏の祖アメノコヤネ、忌部氏のフトダマをはじめ、踊り子の猿女の君一族アメノウズメ、鏡造りの祖タマノオヤの五柱(柱は神の数詞)の神。「古事記」には、各所で各部族や職業の出自が明らかにされている。さらにオモヒカネ、タヂカラヲ、アメノイワトワケと、三種の神器(八咫鏡、天の叢雲の剣・草薙の剣、八尺瓊の勾玉)も伴った。

一行は天浮橋から地上へ降り立つと日向国(現在の宮崎県)、高千穂の峰にいたる。この地は、諸説あるが九州に存在することは確かであるという。九州は温暖な気候で、海・山の幸が豊富な地。まさに天皇家の祖が降り立つにふさわしい場所なのである。ニニギは朝鮮半島に向き合った笠の峰にもつながる、高千穂の地を絶好の地として宮を建て、ここに住み着いたのだった。

道案内をした猿田彦大神は、昔、道筋を治め境界を護る道祖神の性質を持つ神で、天孫降臨の際の葦原の中つ国を案内した神様である。この神様はまた、道路の辻にあって、日常の民の安全や旅人の安全を見守ってくれたり、時には塞の神として流行病などを防いでくれる神様である。

中野十二様の
猿田彦大神

参考　古事記と日本書紀
青春出版社坂本勝「監修」より

地域包括支援センターだより

ぬまたとね医療・介護連携相談室のホームページをご活用ください！

平成31年度より『ぬまたとね医療・介護連携相談室』が開設されました。住み慣れた地域で安心していつまでも生活ができるよう、様々な事業に取り組んでいます。

相談室のホームページから利根沼田圏域内の「病院」「介護・福祉サービス」「避難所」などの情報を検索することができます。例えば、内科と眼科を１つの病院で受診したいときに『内科　眼科』と検索すると、対象の病院が表示されます。

興味のある方は『ぬまたとね医療・介護連携相談室』で検索、または以下のＱＲコードを読み取っていただき、ぜひご活用ください。

ぬまたとね医療・介護連携相談室
https://numatatone.gunma.med.or.jp/renkei